

【全体会】

コーディネーター 奥田雅子さん
(福祉事業交流会実行委員長)



奥田 これから 5 つの分科会の報告を行い、会場からも意見をもらって全体会を進めていきたい。

第 1 分科会



報告者...荻原妙子さん(福祉事業連絡会メンバー)

分科会の報告者は、藤本明美さん(京都子育てネットワーク代表、子育て支援コミュニティーワーカー)と大島朝香さん(フォーラムアソシエ運営委員長、公園遊びの会「おるたん」メンバー)。子育てひろばを始める背景には、子育てをめぐる社会的な状況変化があった。1980年代4人家族は約50%、2005年になると約30%になり、2009年は、単独家庭3つに一つ(高齢、若者)という状況となっている。個家族化といわれているのに子育てが地域全体の課題となっておらず、行政での支援をと思うが、対応部署もはっきりせず、子育てに関して決して良い環境とはいえなかった。そんな状況で、

藤本さんがつくったひろばが新聞に載ると、問い合わせがたくさんあり、場を求めている人が多いことがわかった。耳を傾けているうちに、ひろばのつくり方やリーダー育成、行政との交渉などを支援する場が必要とわかり、中間支援組織をつくった。

大島さんの活動は、公園遊びのサークルリーダーを生み出すという、人と人との関係を豊かにする中間支援組織。養成講座を受けた人が自発的に1ヶ月に一度の遊びの場を開いている。来る人は自由で、新たなリーダーも生まれている。キーワードは、「仲間」「気楽さ」「口コミ力」。実績を積み、政策的なチャンスに入り込む、助成金などつかむことでモデルをつくり、さらに継続していけるようにすることが必要。会場からの主な意見は、子育ては行政や地域からの支援が必要だが、得るためにも実績、主体的に活動する人が必要であり、そのための主体的リーダーを生み出すことが大切。

奥田 ひろばを支えていく人を支える中間組織の紹介をしてもらった。キーワードになる言葉も出ているので自分の活動と重ね合わせてみたらどうか。

第 2 分科会



報告者...曾谷千重子さん(生活クラブ埼玉)

分科会の報告者、友沢ゆみこさん(NPO 法人ピッピ親子サポートネット)の活動は2000年代に障がい児保育から入る。必ず親が見るのが当たり前という考え方など、課題があること

に対し活動で実践しながら解決していこうと「まーぶる」をスタート。その後土地の提供の情報があり、認可保育園とデイサービスの建物を造った。認可保育園を選んだのは、認可の制度に疑問を持ち、中から変えたいと考えたから。学童保育、障害児の放課後居場所作り、ステーションなど現場を見てあわない制度は変えていく、ニーズに合わせて事業を広げ、政策提案をしてきた。その中で、一時保育に力を入れているが、課題は、高いスキルが必要とされるが助成は少ない、その割にニーズが非常にあること。認可保育園事業とともに一時保育を行うことで安定した事業を進めてきている。スタッフの増やし方や教育について質問が出た。新しいNPOを立ち上げることで新たに楽しんで参加する人が見えてきたのと、新たな仕事を生み出すことで違うテーマに興味を持つ人が出てきた。結果的にはお互いに学びあい人が増えてきた。

小川京子さん(NPO 法人北海道子育て支援ワーカーズ)は、別々に活動する4つの子育てW.Co.が協力して一つの大きな事業を行ったことで、4倍以上の力が発揮できたことをメンバーとともに実感した。それをきっかけに4団体の連合で法人をとる。赤字の事業もあるが収益を挙げる事業を平行して行うことで事業を成り立たせている。150人のスタッフの価値観を共有するためにどうしているのかの質問に対して、プロジェクトを組むときには、各団体から人が出て進めることで情報交換や連携、理念の理解もできるとの紹介があった。ひとつのW.Co.で解決出来ないことも、集まることで情報やヒントがある。人材についての質問では、働いている人の紹介が確実であるという話があった。夫に聞いてからとか、仕事としてしか考えていない人は難しい。研修を行い、ワーカーズの働き方を伝え、楽しい時間を過ごす、組織で出来る

ことを体験するなど定着して働く人ができている。

奥田 課題にぶつかるたびに事業が広がり、人材も広がったことが紹介された。

第 3 分 科 会



報告者...荒川啓子さん(福祉クラブ)

分科会の報告者は、北島明枝さん((社)生活クラブ風の村保育園)、高齢者福祉事業をしていたが、子育ての課題が見えプロジェクトを立ち上げ、千葉県八街市で初めて民間の市立保育園をスタートした。0~5歳、縦割り、障害児も受け入れる。心で感じ、体で感じ、考える力を育むことを理念に掲げている。いろいろな人と関わることを大切に、高齢者ともひろばを挟んで自然に無理なく関わるように心がけている。

高井浩子さん(NPO 法人江東まちづくり研究舎「みんなの家」)は、まず地域づくりを考えた。子どもと高齢者の関わりでは、周りに子どもの声があることがリハビリにもなっている。デイサービス(障害者、高齢者)、一時保育(乳児、子ども)をしている。自然に触れ合うことが貴重と感じた。共生型施設に何が必要か、地域の声を広く集めつくった。コンセプトは、近い、小規模、誰も断らない。お互いが地域の人で一体になってつくっていく。ずっと暮らしていく地域を大切にしながら主体的に考えたいとの報告があった。

奥田 多世代、高齢者との交流について、日常で当たり前ふれあう姿が紹介された。

第 4 分 科 会



報告者...小林恭江さん(生活クラブ北海道)

若者就労支援ということで報告してもらった。報告は工藤啓さん(NPO 法人育て上げネット代表理事)で、民間としての事業のあり方、若者の就労の現状について報告してもらった。

60名の職員がおり、年間2億円の事業。若者の定義は15歳～34歳まで。現状は34万人の子どもが学校生活から脱落している。12万人は小・中学校に行けない、8～10万人が高校中退、14万人は大学中退している。非正規雇用は3人に一人、5人に一人は200万円以下の年収である。貯金もできない若者もいる。学校へ出向き若者へ向けて同じ目線で若者就労支援、自立支援の話をしている。先に見える貧困問題、犯罪に目を向けると若者の働き方、教育や自立について大きく社会投資して考えていくことが必要。職場と家庭のほかに、もうひとつの場所として若者がお金を使いたいと思える場を持つことが大切。

民間事業として大切なことは、プロモーション、取り組む必要性の理解をしてもらう、理念をいかに相手に伝えるかである。

利根川徳さん(NPO 法人ワーカーズコープ東京事業本部事務局長/しんじゅく若者サポートステーション・せたがや若者サポートステーション所長)からは、W.Coとして協働労働を若者就労支援につなげる活動を紹介してもらった。地域若者サポートステーションは厚生労働省の委託事業。若者就労支援をするときに大切に

していることは、仲間との協同、利用者との協同(問題を解決する)、地域との協同(資源を生かす)、総合的な相談窓口(厚生労働省としての事業)独自には相談、支援プログラム、保護者へのサポート、ジョブカフェとの連携など行う。厚生労働省の支援は大切だが、自治体とのかかわりや、地域の中で、1対1の支援も必要との話。

大学生の横田惟一郎さん(いきいき森川)は、働き続けることの意味を伝えてくれている。「職場と家庭以外のお金を使う場所が必要という話があったが、自分は貯金を使うことが怖くお金を使う気がしなかった。外に出てみると、いろいろなものが欲しくなった。お金が汚いのではなく、きれいな使い方をすればいいし、経験や実感すること、かかわっていくことが大切と感じた。」

奥田 若者を取り巻く社会状況は非常に厳しい。若者に寄り添っていかにサポートしていくかの紹介があった。横田さんの言葉は当事者で、説得力があった。

第 5 分 科 会



報告者...清水啓子さん(大阪、保障事業政策委員)

ファシリテーターは福川須美さん(駒沢女子短期大学保育課教授)。Nobody's Perfect(NP)プログラムの説明があった。カナダで、1987年にできた仕組み。誰でも完全ではない、一人一人違ってよいという考え方を、国全体で

共通認識を持つようとしている。

カナダの母親が子育てで大切にしていることを聞くと、「こどもが自信を持つようになっている。」「どんな小さなことでも見つけて褒める。」

プログラムは絵を見て理解できるようなテキストを作成し、参加するとプログラムの本（4,000円程度）がもらえるような仕組みになっている。希望しても低所得で出てこれない人には交通費を支給して出てきてもらうようにしている。テキストには、はじめに子育ての注意事項が、最後には困っている親への支援事項が細かく書いてあり、心強い内容になっている。プログラムは6～8回の話し合いを通して支援を伝えていく。ファシリテーターが安心して話せる場をつくり、議論が進むように配慮している。決して指導したり、結論付けたりしない。

説明後、体験プログラムを行う。決まり事は話し合いをして自分達で決めスタートする。いかに有効に自然体でこの話し合いができるようにルールをつくることから始まる。子育て世代の参加、コミュニケーションの二つのグループで話し合い。経験に基づいた話し合いを行う手法ですすめた。問題になっている出来事は、（親にとって、子にとって）どんな意味があるのか、詳しく掘り下げてその出来事をどう生かしていくのかを考えていった。コミュニケーションの話し合いでは、自分の伝え方が十分なのか、お互いの違いに気づくために（他の人に入ってもらいなど）場面をつくる必要があるのではないかと思った。子育てでも気づいて、共有し、支えあうことが大切だと感じた。

奥田 NP はカナダのプログラムで、内容の説明と実際のプログラムの紹介があった。

全体を通しての質問など

(質問)NP プログラムの初歩の簡単な本があれば教えてほしい。

(回答) 福川さんよりカナダ版のテキスト5冊組を紹介 「ノーバディーズ・パーフェクト」全5冊、「父親」ドメス出版。内容は、親が直面する基本的なものを押さえている。絵が豊富で言葉がわからなくとも読み取れるように工夫してある。テキストを読むというより、話し合いを積み重ね進めていくものである。

(感想) 風の村に15年前に訪れたことがある。高齢者だけの施設を見てきた覚えがある。保育園が出来たことで発展し、高齢者との交流ができ良かった。

まとめ

コーディネーター 奥田雅子さん

子育て支援といっても様々な視点がある。課題となっているのは、事業としてどう成り立たせていくのか。委託をどうとってくるのか(行政の縦割りの中をどう突破して予算を使いやすい形でとってくるか)、カナダのように、子育てに対しての仕組みや意識を足下から変えていけると良い。支援する人を支援する仕組みや若者支援も大切。子育て～若者支援は地続き。子どもの頃経験したことが大人につながる。多軸重層型で全体的視野に立ち自分の活動を捕らえられれば良いと思う。社会への発信という面で、いいことをしていても外への見せ方に課題があるということがどこも共通の悩みのようだ。しかし、みんなの活動が共有できたことで、これからの活動の元気につなげていきたい。

【閉会の辞】総合司会 朝倉順子さん(福祉交流会実行委員/多摩きた生活クラブ生協)

長時間のご参加お疲れ様でした。地域に帰ってこれからの活動に生かしてください。

【第8回福祉事業交流会 8月28日(金) 施設見学】

Aコース(西東京市方面)

参加人数 9名

*集合 13時30分 西武池袋線保谷駅改札

Aコース

見学時間 14:00~17:00

見学ルート

13:30 保谷駅 集合

バス

「荒井竹」下車

14:00 社会福祉法人 悠遊

15:00

徒歩で移動

15:15 パスレル保谷

パスレル保谷概要説明

(場所; パスレル保谷 2F イベントスペース、案内; NPO プラスド西東京)

16:00

ハミング

保育園ぼむ

アンジュ・カフェ・デポー

ひらけごま

シェアドオフィス

ACT

17:00 *解散、



悠遊で施設長の伊藤隆志さんより説明を受ける。



保育園ぼむを見学する参加者

【第8回福祉事業交流会 8月28日(金) 施設見学】

Bコース(世田谷方面)

時間：14:00～17:00

参加人数：10名

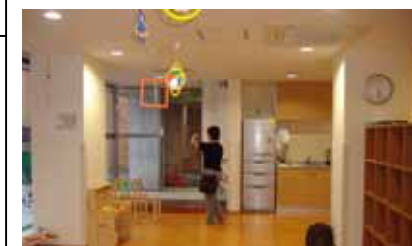
集合：生活クラブ館3F(世田谷区宮坂3-13-13/03-5426-5207)

Bコース

- 14:00 生活クラブ館3Fへ集合
- 14:05 2Fにあるぶらんこ見学
- 14:50 経堂駅から下北沢へ移動(小田急線)
- 15:20 COS下北沢に到着
COS下北沢の説明と建物見学
ていんかあべる見学
- 16:30 下北沢より経堂へ
- 17:00 生活クラブ館到着



子育て広場ぶらんこ



上：COS下北沢外観

中：まちづくり広場ザワーズのメンバーから
COS下北沢の説明を聴く

右：キッズルームていんかあべるの入り口



単協別参加者数

単協	参加者数
東京	41
神奈川	20
千葉	12
埼玉	12
福祉クラブ	12
北海道	3
静岡	3
愛知	2
大阪	3
長野	6
茨城	3
報告者	16
外部団体	1
実行委員	13
事務局	8
合計	155

分科会別参加者人数

分科会	参加者数
第1分科会	29
第2分科会	33
第3分科会	29
第4分科会	24
第5分科会	11
合計	126

*報告者、コーディネーター、事務局含まず

施設見学者参加者数

Aコース	9	*うち1名28日のみ(京都)
Bコース	12	*うち4名28日のみ(栃木1名、長野2名、神奈川1名)
計	21	

第8回福祉事業交流会実行委員

奥田 雅子	*実行委員長 生活クラブ生協・東京
朝倉 順子	生活クラブ生協・東京
伊藤 由理子	生活クラブ生協・東京
浅川 悦子	23区南生活クラブ生協
岡部 和代	北東京生活クラブ生協
田中 且枝	多摩きた生活クラブ生協
若林 裕子	多摩南生活クラブ生協
岡田 佳子	子育て応援チーム すこっぴ
浮田 理香	生活クラブ保育園ぼむ
苅草 治美	ワーカーズ・コレクティブちろりん村
柳本 悦子	東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合
石塚 芳恵	特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい
池座 俊子	東京・生活者ネットワーク
三好 規	生活クラブ連合会事務局
岡村 祐一	生活クラブ連合会事務局
河本 美智子	生活クラブ連合会事務局
若松 恵子	生活クラブ東京事務局
篠田 直也	生活クラブ東京事務局
谷 嘉子	生活クラブ東京事務局
大橋 明子	生活クラブ東京事務局

